

『那須町中学生海外派遣事業』

オーストラリアケアンズ市で 貴重な体験をしました

11月16日(出)23日(出)までの8日間、「那須町中学生海外派遣事業」として、町内の中学生16名(他引率2名)が、オーストラリア・ケアンズ市でホームステイおよび学校訪問を行いました。派遣団は7回にわたる事前研修会を実施し、英語研修や現地事情研修、団員相互の仲間づくり等に取り組み、那須町代表としての責任と大きな期待を胸に出発しました。



現地校の生徒とともに過ごした学校訪問

日程

- 【1日目】** 町役場で出発式を行った後、成田空港から一路ケアンズへ。所要7時間30分の機中泊。
- 【2日目】** ケアンズ空港到着。ホテルでの朝食後、世界自然遺産であり、世界最古の熱帯雨林といわれる「キュランダ高原」に向かう。高原列車からの眺望は雄大で素晴らしい。夕方には、ケアンズ市内の図書館でホストファミリーとの対面。緊張した様子も見られましたが、ファミリーがとても親しげに笑顔で迎えてくれたので、生徒もすぐに言葉交わし始め、笑顔でそれぞれの家庭に向かった。
- 【3日目】** この日から4日間、「私立トリニティ・アングリカン・スクール」(幼小中高一貫校)へ、それぞれホストファミリーに送ってもらい登校。担当の先生の学校案内、オリエンテーションの後、派遣生徒一人一人についてくれるバディと呼ばれる現地校の生徒と授業へ参加。数学や理科、パソコンの授業を受けたり、一緒に昼食をとったり、終日学校で生活。
- 【4日目】** 2時間バディと授業に参加した後、トリニティの先生の授業に全員で参加。午後はバスでケアンズ市内を観光。史跡等を見学し、ケアンズの歴史を学んだ。
- 【5日目】** 終日グリーン島へ。

初めて体験するシュノーケルでたくさんのきれいな魚を見た。

【6日目】 2時間目から美術室でブーメランの給付けを行う。午後はバディと授業に参加。ノートに授業の様子をメモしお互いに情報交換する場面も見られた。



ホストファミリーへの感謝の手紙を英語で書きました

【7日目】 ダンス指導者にペアで踊るフォークダンスを教えてもらう。お互いに手を取り合い、踊っている内に距離も縮まっていった。副校長先生から修了証書を一人一人いただいた。リーダーの高根澤真樹さんが英語でスピーチを行い、サブリーダーの小鍛冶燈さんと大島梨佳子さんが九尾の狐のお面などをプレゼントした。その後Year7のクラスに団員は「ふるさと」を二部合唱でプレゼントした。教室内に歌声が響き渡り、鳥肌が立つほど素晴らしかった。またオーストラリアの児童が日本語で「カエルの歌」の輪唱を聞かせてくれた。お互いの交流によって素晴らしい時間を持つことができた。

【8日目】 最終日。7日間お世話になったホストファミリーとお

別れ。抱き合い涙ぐむ姿も見られた。たくさんの思い出と感動を胸に、ケアンズを後にした。午後11時30分、無事に役場に到着。久しぶりの我が家へと帰って行った。

派遣団感想

・団長 戸村一郎

事前研修を通して団員が一つになり、海外での共通の体験を通してお互いに刺激し合い、大きく成長できました。訪問する学校は昨年と同じだったので、先生方や生徒たちも那須町の我々のことを覚えてくれており、より深い交流となりました。継続していく中で双方の交流へとつながっていくことを期待しています。

・副団長 高久瑞希

全7回の事前研修と1週間という短い期間の海外研修でしたが、そこで学び、感じ、経験したことは、計り知れないほど団員や私にとって大きな財産となりました。また、団員の努力や気持ちと、その団員をサポートしていただいた方々に感謝します。今回の海外派遣事業で終わりではなく、ここから先につなげていきたいと思えます。

団員感想

・戸上雅哉(東陽中1年)

今回、派遣事業に参加して感じたことは、できないことでもあき